

館長コラム
帰化植物 滝沢 具幸

シルクロードを旅した時、ホータン川の河原に濃紫色の美しい薊あざみが咲いていた。その色があまりに鮮やかなので、種を持ち帰って家の庭に蒔いてみたいという思いが一瞬頭をよぎった。が、すぐに思い留まった。その見知らぬ植物が庭から逃げ出して天竜川の河原を一面に覆うことになったら、と考えると、ぞっとしたのである。

今迄見たことのない植物の群落を見つけて、どこかよその土地にきた気がすることがある。藪や土手に蔓延ははって皆から困られているアレチウリやワルナスビ、オオオナモミなどの繁殖力の強さには全く驚かされる。アレチウリは

ポロギクなど少々かわいそうな名前前のものもある。植物の命名もなかなか難しい。

次々と珍しい新種が入ってくるのは楽しいことではあるが、またい

ささか迷惑なことでもある。グローバル化し、情報過多の忙しい世の中であって、植物も同調しているの

だろうか、この頃の植生は落ち着きの無い気がする。昔からの、その土地でしか見られない固有種が失われてゆくのは残念なことである。気候や環境の変化に対応できないデリケートな植物を大切にしたいものである。

灌木林を緑の幕で被い尽くして手のつけられない有様である。自宅近くの駐車場にはウラジロチコグサらしい白っぽい幼芽の苗が所狭しと生えている。古くから根付いている外来種は多い。お

馴染みのレンゲソウ(ゲンゲ)や月見草(オオマツヨイグサ)、ニセアカシヤ(ハリエンジュ)なども帰化植物の代表格である。先日、タンポポに似たきれいな黄色い花を見た。調べてみると「ブタナ」という名であったが、その姿にはふさわしくない花名と思った。ハキダメギクやノ

植物の種をむやみに外国から持ち帰るのはいけないのである。

近頃、外来の植物が随分増え、日本在来のオオバコやナズナが生えた懐かしい道端や空き地の風景は少なくなった。路傍に



月見草(オオマツヨイグサ)

◆ インフォメーション ④→⑥月 ◆

● 美術博物館

お問い合わせ: 0265-22-8118

◎ 特別陳列

- 桜 一欄漫と愛惜の花ー 4/3(水) → 5/6(日)
- 飯田大火60年 一まちを変えた大災害をふりかえるー 4/19(木) → 5/27(日)
- 城田孝一郎の木彫 6/9(土) → 7/8(日)

◎ 平常展示

- 菱田春草と飯田の美術 1 4/3(水) → 4/22(日)
- 菱田春草と飯田の美術 2 4/27(金) → 5/27(日)
- 中国磁器の意匠学 5/12(土) → 7/8(日)
- 菱田春草と飯田の美術 3 6/9(土) → 7/8(日)

◎ プラネタリウム

- 春の番組「さやかの夢冒険」 3/10(土) → 6/10(日)
- 夏の番組「とっとこハム太郎」 6/16(土) → 9/2(日)

◎ 座談会

- 飯田の大火の思い出を語る 4/22(日) 13:30~

◎ 映写会

- 飯田の大火前後の貴重な映像を見る 4/20(金) 11:45~
- ・4/30(月)・5/3(木)・12(土)・27(日) 14:00~

◎ 自然講演会

- どうなる? どうする! 河川と海岸の環境 6/10(日) 14:00~
- 講師: 増田富士雄氏 (同志社大学教授)

◎ 自然講座

- 伊那谷のまん中から地域史を語る 4/21(土) 13:30~
- 信州花ごよみ 4/26(木) 19:00~
- 世界遺産のメリット・デメリット 5/19(土) 13:30~
- 高山帯の現状と保護活動 6/16(土) 13:30~

◎ 美博文化講座

- 南アルプス南麓の民俗と駿河神楽 5/20(日) 13:30~
- やさしい仏像の見方 一雲上の神とホトケー 5/22(水) 19:00~
- 見学会 「飯田城をめぐる」 6/9(土) 9:00~
- 三穂の民俗 一民俗報告書2の内容を中心にー 6/24(日) 10:30~

◎ 子ども美術学校 (年7回開講 *要申込み)

- 参加者募集 5/2(水) 締め切り
- 第1回 5/13(日)・第2回 6/17(日)・第3回 7/7(土) 13:00~

◎ 科学工作教室 (*要申込み)

- 三極モーターを作って車を走らせよう 6/30(土) 10:00~

◎ 宇宙をのぞこう (親子で学ぶ天文講座)

- 地球の年齢と星の一生 5/26(土) 15:00~

◎ 星空観察会

- 水星と金星 5/19(土)
- 4/9(月)

◇ 特別開館日

- 4/3(水)~4/10(水) 17:00~21:00

◇ 夜間開館日

- 5/11(金)・5/28(月)~6/6(水)

◎ 上郷考古博物館

お問い合わせ: 0265-53-3755

◎ 調査報告会

- 平成18年度遺跡調査報告会 4/14(土) 13:30~

◎ ワークショップ (*要申込み)

- 玉造部の会 4/22(日) 9:30~
- ぎやまん工房 5/6(日) 9:30~
- 大人の土器づくり教室 6/23(土)・24(日)
- ◎ 見学会 (*要申込み) 5/27(日) 9:00~
- 下伊那古墳探検隊

◎ 追手町小学校 化石標本室

お問い合わせ: 美術博物館へ

- ◎ 公開日 4/28(土)~29(日)・5/4(金)~6(日)・6/24(日) 10:00~16:00
- ◎ 化石クリーニング 4/29(日)・5/5(土) 10:00~16:00
- ◎ 化石レプリカ作成 5/4(金)・5/6(日) 10:00~16:00

◆ 寄贈品御礼

- Alfred Bhend 作 「ビッケル」 1点
- 鎮西清高様 ありがとうございます。

テラス

◎ 飯田市美術博物館 ニュース ◎

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" Vol.076

発行: 飯田市美術博物館

http://www.iida-museum.org/



特別陳列

桜 — 爛漫と愛惜の花 — ① 4/3(火) → 5/6(日)

春の訪れとともに、日本人の誰もがその開花を心待ちにする桜の花。華やかに咲き誇るすがたに陶然とし、はかなく散りゆくさまに愛惜の感情を重ね合わせる。桜の花が日本人にとって特別な花であることは多くの人が実感していることでしょう。

飯田市内には一本桜の古木が数多く残っています。美術博物館の敷地にも桜の古木がありますが、なかでも樹齢四百年を超えるといわれる通称「安富桜」は、当館の開館よりもはるかに昔から飯田の歴史を見つめてきました。安富家の屋敷跡の側にあることからその名で親しまれ、種類はエドヒガン、樹高約20m、根回り約5.4m、長野県の天然記念物に指定されています。満開になったときの姿は見事で、その脇に咲く山菜萵の黄色い花が桜の存在感をいっそう引き立ててくれます。

この「安富桜」が開花する季節にあわせて、桜にちなんだ展覧会を開催いたします。おもな展示品は、仲村進の毛賀の名桜を描いた大作「南アルプス遠望」や、華やかな装飾をほどこした印籠、江戸時代の植物図鑑ともいべき「本草図彙」など、バラエティに富んだ桜に関連する

資料を紹介します。私たち日本人が桜とどのように接し、理解してきたのか。またどのように表現してきたのか。本展を通じ、桜に

込められた先人たちの感情に少しでも近づけることができればと考えます。

なお、4月3日(火)から10日(火)まで夜間開館を実施し、開館時間を夜9時まで延長いたします。この期間中の午後5時以降は観覧料無料となりますので、夜桜を楽しみながら展覧会へも足をお運びください。

この展覧会は、ゴールデンウィーク明けまで開催いたします。鮮やかな



①「三十六品桜華図」(※部分) 1幅 個人蔵

新緑の葉桜を愛でるのも乙なものです。展示室の中で変わらずほんのりと淡い紅色に染まった桜も引き続き続いてお楽しみください。

(織田)



①桜に雄 壽絵印籠 本館蔵(綿半野原コレクション)

春の美術平常展示

菱田春草と飯田の美術 ③

ここに紹介するのは、菱田春草筆「高士の図」です。紙本に墨画で描かれた作品で、道服を着た老人が画面中央に大きく配されています。人物の容貌は鉄線描風の用筆がみられ、細かく描かれた高士の表情が確認できます。一方で衣には

たっぶりとした筆線もみられ、肥瘦線によって布のたわみや皺が描き出されています。また画面下方には「明治廿二年十二月廿一日」という年記があり、春草が満15歳の頃に描かれたものであるということがわかります。

明治21年に飯田学校高等科を卒業した春草は、日本画家を志して翌22年の9月に上京しました。そして狩野派の日本画家で、東京美術学校の助教授もつとめていた結城正明の画塾にはいって、日本画の初歩を学びはじめます。本図「高士の図」は、この正明塾の入門まもない時期の作品です。恐らくは正明の手本を模写したものであり、鉄線

描や肥瘦線など運筆法の修得が目的とされる授業での制作物なのでしょう。また高士の額には朱書きの訂正線がみられ、左下方には朱の丸印が記されており、正明の指導の様子も確認できます。本図は春草が画家としての学習をはじめた当初の作品であるため、筆致には全体にたどたどしさが残ります。しかしこうした真摯な研鑽はやがて実を結び、彼は翌年九月に東京美術学校への入学を果たすことになるのです。

本年度の美術平常展示では、「菱田春草と飯田の美術」と題し、春草と美術院作家を紹介するコーナーと、当地に関する様々な美術の特集コーナーを、次のように設けます。

- ・4月3日(火)～4月22日(日) 菱田春草と飯田の美術 1 - 昭和の日本画特集 -
- ・4月27日(金)～5月27日(日) 菱田春草と飯田の美術 2 - 佐竹蓬平特集 -
- ・6月9日(土)～7月8日(日) 菱田春草と飯田の美術 3 - 来訪作家特集 -

特集コーナーの第1期では、亀割隆や棚田泰生ら当地ゆかりの日本画家による昭和期の作品を、第2期では江戸時代に当地で南画を手がけた佐竹蓬平を展示します。第3期は白隠や富岡鉄斎、正宗得三郎ら、当地を訪れた著名作家を紹介します。また「高士の図」は第3期の展示にて、他の春草初期作とともに陳列いたします。

(小島)



③「高士の図」 菱田春草 明治22年(1889) 個人蔵(本館寄託) (菱田春草と飯田の美術 3 にて陳列)



③「花あやめ」 菱田春草 明治38年(1905) 本館蔵 (菱田春草と飯田の美術 2 にて陳列)



②飯田大火写真



②罹災直後写真

特別陳列

共催/伊那史学会・飯田市立中央図書館

飯田の大火60年 — まちを変えた大災害を振りかえる — ② 4/19(木) → 5/27(日)

今からちょうど60年前にあたる昭和22年4月20日午前11時40分、知久町1丁目の八十二銀行裏手にあたる民家から発生した火災は、松川の谷下から吹き上げる西南風に煽られて、またたく間に燃え広がります。市街地のおよそ8割を焼き尽くしました。罹災世帯数4010、罹災人口17,800人。全国における戦後の大火の中でも鳥取の大火(昭和27年)に次ぐ大惨事でした。

その後の飯田は、防災モデル都市として復興し、そのシンボルとなった「りんご並木」や、今話題の「裏界線」も誕生しました。

しかし一方で、城下町として発展し「飯田 美しき町」と称されたほどに歴史的風情に富んだまち「丘の上」は、ほとんどすべてが灰燼に帰しました。飯田のまちはこの大火によって大きく変貌したのです。

このたびの特別陳列は、大火前後に撮影された写真を中心に、当時の貴重な映像や資料を加え、さらに被災者の体験談を交えながら、飯田大火を振り返ろうとするものです。ぜひともご覧ください。

(桜井)

◎附属事業

- ①座談会「飯田大火の思い出を語る」
日 時/4月22日(日) 午後1時30分～4時30分
会 場/美博講堂
講 師/体験者
聴 講/無 料

- ②映写会「飯田大火前後の貴重な映像を見る」
日 時/4月20日(金) 午前11時45分～12時45分
4月30日(月)、5月3日(木)・12日(土)・27日(日) 午後2時～3時
会 場/美博講堂
観 覧/展示観覧料を含む(映写会のみは大人110円、高校生80円、小・中学生50円)